

西多摩農業改良普及センターからのお知らせ

「野菜・果樹類のカメムシ類による被害を防ぎましょう」



宍戸 洋介



普及センターに多く寄せられる相談に、カメムシ類による被害があります。そこで、今回は野菜・果樹類に被害を及ぼすカメムシ類の特徴をお伝えします。防除にお役立てください。

カメムシの生態と防除

- カメムシ類は春先から冬前まで長期間発生し、さまざまな植物を食害するため、年間を通じて注意が必要な害虫です。
 - ほ場の見回りをこまめに行い、カメムシ類を見つけたら速やかに薬剤散布を行いましょう。
- 3月下旬～4月ごろから越冬成虫は活動をはじめ、麦や野菜、雑草、スギなどの樹木で産卵、増殖します。
 - 雑草をこまめに除草することでカメムシの数を減らせます。
- 例年、5月～9月に幼虫が発生し、その後発生密度が高くなります。
 - 成虫より幼虫のほうが薬剤の効果が高いため、5月～9月ごろに登録農薬を散布するとその後の成虫の発生を抑えられ、秋以降の被害軽減に繋がります。
- 11月ごろに成虫が枯草や落葉の間、葉物野菜の葉の間へ移動し越冬します。
 - 冬場のほ場の枯葉や枯草等の処分によりカメムシの越冬場所を減らしましょう。
- スギの花粉が多い年はカメムシのエサになる球果量も多いので、翌年カメムシの飛来量が多くなりやすく、注意が必要です。
- 暖冬の年は越冬成虫の生存率が高まるため、翌年の被害が増えやすくなります。
- ほ場ではミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ、ブチヒゲカメムシ、チャバネアオカメムシ、クサギカメムシなど様々な種がみられます(写真1～3)。
 - 栽培品目によっては、防虫ネットの使用もカメムシ類の防除に効果的です。



写真1
ミナミアオカメムシ



写真2
チャバネアオカメムシ



写真3
クサギカメムシ



写真4
カメムシ類による被害を受けたトウモロコシ

代表的な被害とその主な作物

- | | |
|------------------|---------------------------|
| トウモロコシ | :粒がしぼんで凹みを生じ、萎縮する症状(写真4) |
| キャベツ、ハクサイなどの葉物野菜 | :葉に小さな白斑ができる、葉の黄化、奇形、生育不良 |
| ナス、イチゴなどの果菜類 | :刺された後にくぼみ、硬化する果実の奇形 |
| カンキツ、ウメなどの果樹類 | :果実の奇形、表面の変形、壊死、果肉の液化 |

※ここに挙げている植物種以外でも被害が発生する場合があります。被害でお困りの場合は普及センターにご連絡ください。

出典:写真1【宮崎県】写真2,3【東京都病害虫防除所】